内閣文庫
和書
函 二〇二
架 二三
冊 大〇
號 二七三四二
類

和書門
類
二七三四二
號
九〇
函
一一
架
六〇
冊

内閣文庫
番號 和 27342
冊數 60 (53)
函號 202 351

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

源氏物語の三月ゝ四月ゝ

年ゝゝゝゝゝて家のゝゝゝゝゝ

れうへりあり

槿

かぢ後そうゝ

せようそうせをそうそ

はめとぐめをてこおりはれづるをゝの行ちどゝも

撞ノ木ぢう

さんじのまとゝよ家きさまでぶゝやれうゝと

撞ノ秋花と云ん

光あうを院いこぐうゝこゝとゝよはゝしのの人ど

宣旨ハ地ヘ

はりゝやうようゝきざあるれのゝちどれあゝば

ゝそゝくゝも家ゝうへあゝゝれもあやけさ南乃

はりゝのれゝふゝひちるとかこゝえちゝうゝのゝて

いぐゝまあやうるれがひいかいこゝてゝまゝゝうすべ

うんゝまそゝりゝゝべゝゝ安あ家のれゝうゝまる

やうゝはりすぐゝぎ侍ぬ人がいゝと大ん哀ほ思ふ

他日ゝふのゝちぐゝゝゝをゝくはゝゝあびてゝゝうゝひ

治ゝゝゝゝちのいゝゝもゝゝゝゝるゝゝゝゝて心ゝ人

ゝゝ人ゝゝ良ゝゝゝはりひいでのれゝと消あゝゝ結

をげゝゝ人ぐゝのゝゝひゝゝゝゝゝ撞ゝゝゝ大ノいゝん

ふあふはりいこのはゝ汁ほぐゝのゝくれんぐゝゝゝゝ

治めゝをゝゝゝゝいまゝゝぐゝのゝゝれ心ぐゝゝゝも

あゝゝず桃園こ家もすぢ撞ノゝゝゝゝゝゝ心ゝゝ結

ゝあゝげゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぐゝゝまてゝゝれゝ結ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

されど故方(たかた)の姫(ひめ)ごぜ(御前)まれ(生)られしうぶ(産)りし
三条(さんじょう)の内府(だいふ)うんぢ(産)のいとけなき(幼)ほど(程)
そへ(添)ぢ(乳)ぢ(乳)ぢ(乳

のられぐるこれ上げ上げのやむごとなきれば
ことはそのことあれ人べあるべからず
われもくとうべきことどもぞとぐよりう
まり法なるせゆすりて有きれいそぞき
いそぎひとり四位よりてんと浄そ世人もさそ
あくんとなへあをまぐくとそびいるほどを銭
心よまうをうせてしゆうりうなくんも
中くゆるれうくとあるよりあしくめりあき
ぞそて夜ごろくうを治を大夫とあるべあき
もトさくとなばしうでとうよりとあり
うりけうれたいめんありてこのようとそて治う

治今うあれどうよもまぐをとひうを
まどうゆれどやうやうゆてだそのたよさぐく
るうはうむのはいゆうよりうよ二三をいさ
づのうしよもうて　をれづくはやげよも
けうまうめべき行よもあるが今ひくくあり侍
ちんまづくはくのへのうるあひいで侍て
世中のあり様もうゆるばようひるれ前う
うくひて　ひづくよちんくるきあるぐもあう
ひゆくぐうくさゆてうくへゆぐこあよ
ぐともひろさ心とまくあゆぐ民文はまゆづよも
よあそのくしべよわくうばとぐうれ有の

なげくちゑん法ゐ[illegible]
まさるこゝろ[illegible]
してゐぞくつゝ[illegible]
のゆくさきゝ[illegible]
とゝて法ゐ[illegible]
心よりるひ世中ゐ[illegible]
ゑんちゑ[illegible]
なげゆべ[illegible]
まちる發[illegible]
世の人の[illegible]
しゝ[illegible]

なげてやんごとなきやうにうれどもうつゝ
ごさ人よりちをとられてせおろつるすゑこゝい人よ
うめおれでゐるよゝうとゐちさゝるちん
ゐれざえをもくそやまくむきゐのせよ
ちひゝゐるくゝもつゝゐゐてわうてい
心もくちゝやうゝゐりともつゐのせのとまゝと
ちゝべゝさ心をゝてをちゝひゐゐゐずゑん後も
うちろやすゝべゝさゝゝ今ゐゝゝぐ
しゝゝずちゝゝゝくゝゝゝゐゝゐせゝゝ
ゝろおぞのゝゝとゝてゝゐひゐれゐひとゝもよゝも
ゐゝゝとゝゝゐのゝちゝちゝゝゝをゝ人ゝ

ちげさのてげよくまもあげしうべうとけるを
はたちばかりのひさごべうれうとちりと
うちうちばかりをこのおかれごちるもいとちち
めしくたまはれたる繪のようどもと我よういげ
らうさおとうとうしごとれをのくくい
ちみばりてあうすけあくるおうおだをいく
しくさくれうがおどうくべうちりと
うくくもへどうちけひのそいとおすけても恨
ばかりかいとくるやこのくへのはどよりて
いくうけうとあばしうう同ちどてずうく
地のうちまえばくいそれ恨いをのづくけば

ちんとうくうくはわざかひうくといひんづーの尾と
てーはひんづーのこいをとうくれうこ上越戸
夜ごくへめづくくいづくうくくよりて我も我もと
けどひまりもうくもをども中くちめべくべ
うう家ちて例わんよまうきてちぶむうくちるくさ
びうくとうくへとあばきのへばうあてつれちまくせる
して前ちれよまくめうくうくどまれうちわ
ばうくちまうきすぐうくちるどもくちるくかまち
うけづひびべくうくちて産ようくうくびる
うくうくうくうくめうくもちめうくちるくさ
ちばうくへばけうくまれめうくはわくひちばそ

ちぐ〻ずつ〻ちびまわる恨をとくちりいぐ
てへいでちどもさくきのへれぐずらくちりけるま
ぐひそ出ち拍民ちるどのおれくくけ
ちりのへるをあくまくくくめちてあるす羽元
ひまくあちぐられくぶひぐるけちくぶく
ぐちりのくくくあるちるぐをくずてや
ちりやけるいつくまちりのふれくぶをくちるぐ
いつるへぐられはちびてけひめれぐ又ちり多
りちりやまんられくぶひぐちり屋をひくそ
くちくくびちんちどぐいふもりてくちる
ひまくめへぐいぐくけりあちくひこのくち

ちりいでちのへるを逆ちどいくくちぐはうち
はちくちどてうすぐ後をくこのて心ぐ
のふがめでくくさくく恨ちくくくくくへ
いくくれいふをもせいくくちあけちくくも
ぐむうくくのくちくちくちどもあり
りていい中くいはすくけちくんちはけて
くちううはくくくびけくくへちけちぐ
後ぐくはるいくちちべてちくず後くくちる
いぐちりちりはぐいくくあれくくちる角
くけうくくちどいはれるんとのはてくくの
ちちくくれてぐけんくけうずくまれる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちつづき、うつくしふこゝろをもてや
がて、その流の間うこれざうしいりて、まゝやうに
ざえ、さくき師匠あづけのひてで、学問をさせなり
給ける。大変のれもとくまもなくまで給ふず。
ようひろうけうてて、ちくまもちがくまで給ふず。
なをちらちらのへれじ、ほんぢてこそいえもれるひ
給りどとて、きびをもう有よこあなりのへるるやうう。
一月よりうびごろをまりめへとそ、ゆれし
ちうてもひけりけりとこ、もりおのひて、いづせこま
まるとれをけりくまおかくまれくうる
うでもうちうちうわおよのぼりせうちうう

人いろやいおうと・さひさそしのへど・おほるるの人
ぐまめやうと・おぐめさめるさ・ゑちあてすれど
いとよくわんじて・いづでまべきわぎもくまと
てて・まだらひまして・せよもいでさんくちひて・
さで四めの月のうちに・史記などいと文い・よくまして
のてぐりつ・ぼんはれわ・察試うけさんとて・おび紙れ
まへまて心をさも結れいのおれ・左大弁・或は大輔・
左中弁・おぐぐりして・れ師のお関紀とめして・
史記のくさまをくれうしうけんよもをろ
人さしぐさうしぐとひさいで・ひとりつよ
まをまり結よ・いたれわ角ちくぐまうよ

もまうさへる感づまぐうしのうくぐ・おき角
しさまでまぐされ・ればさうべぐさまとておそし
れとられもく泪おとうしのふれおいまして・行・敢お
ぐおうくをまうくば・くくさていでるさのふ・敢も
え心づうまて・ぐ・行ずへのうへまてうくれ
ぐとと字作をこのおとるづはやのうち
ぐうりられゆくことい・いづぐるあ・敷ぐぐう
せまてい作れぐのまて・ぐのぐひ結をうれ師
の心ちうわくめいばくありとと入うれおれさう
づさうの人がいうとうれてとうるりけさ
いとやをくせ・せのひがもれまてぐえの行ちうは

まちわたれず、そげなくて、まづちくちんきげつを、
れうんじうゐ、あり、てくらりつきめしうを
ふるちりり、ゐ（大百科）はあまりまでれうりを、ぬりてば
たきこのれとくまじちりまりを、ゐへうとかも
へぐ（池）まりてゆくこさいるしげべさんあるされ、ぐしで
あくうし、だ（タノ）ぞまはいり、ぬ（察門）ちんうしを、
ゐのれうる、ぬども、ぐずしげ、ぐひこうおはう
こせこのうりうるへあ、ぐくこしうる、文るく
まてうづれてづくろられいり、ぬへるうるどれ
たゐのれこ、ぬげくうゐまぐらひまは、こずあてる
うううげるり、例のあわうさ、ぬどもこのうちまぐり

つこうるうゐ、ぐのすゐをうしと、ぬ（タノ）げすでいと
ことくうちるやこうこてもまるかうしのこうゐ、ぬ
どもありてめぐ、ぬしうれどずうしもかくうどで
ちここて、ぬつじうしぬ、ぐておぞのこうゆうう
ちれば、ゐるうちまれへ、ぬれもくとはゐこゆぐし
あ、ぬればいしく、世中（ちうちう）ぐこうゐ
へ、ぬ、ぬくちんありけう、文へ（撰生）ぐこうるぐいうる
こうぐもりうちうぐめすくこうこてゆへ
れぐひとへこうるこいわて、ぬもゆ（でー）みもいとぐ
こげちしのゐ（ゐ）こもゐ（ん）文げうちゐげく、博士（うせさんぜん）へ
ども、ゐえこうすべてうるゐこつけてもゐうの

ぎえの程あしもとくせつちん有けるうくて石井
のつべくとを、妙覚の女はれをとこそいはんとも
ゆづり男こ活ひしくづ、おくぐもことづけ給ふ氏乃
うちもとり石まゐ給ふんこと世のへゆゝ男ぞ。
弘徽殿の光へりさそ給ふもいぐるど
うらくまこるるさる心ゝを男ゆゝ人ぐ。ばば
つゝゆづりさを。男の家と男しゝ今さ或ゝん
まてゝ。ばれ時ゝはまゝしてやひごゝあさ出給てゝ
なゝすゝれむすめ。ばいいありて来のゝりおるゝ
王女れまてゝさゝひめをおるゝ。いれ知らくゝて。
ちゝゝくなゝすべゝゝ。なゝ石のおりまゝめ

れゝゝりのゝちゝゝまとくゝゝをそゝよけゝゝて
ゝゝくくと。ゝりぐゝまゝゝあゝゝひゝれどゝる紙
梅つゝゝねゝひめれさいちいのくひゝくへゝとゝれ
のゝりけゝをせ人ゝどゝゝさ男ゝゝとゝぐゝ出ゝゝ
あゝりのゝて。れ内ゝゝゝ

此家のうちなりやいかれと今一所とるむかし
けつりつくむどゝ成りゝ
まゝどゝれどゝその如き物家の大納言のわすれて
きむくひきうまどものくゝ成りてそれは
まもなく後のなやまゆゝんいとあいるゝとて
とりとるもつまてまて。おくまであづけ置て人り
けつかれ[こゝろざし]ゝ成りてゝ[言為]なくひなどゝうえ
なれど人ゝ[言為]ゝ成りてゝ[言為]ゝ成りてゝ[言為]ゝ成りて

ゆゑ〳〵よりていられをぞ心ちく〻さみべる
まぐ〻なひとすてのゆひをれうけうこそ
くさかそ〻しまへるあこどもの心おされて
づ〻おちゐはりあるをけうのへもはりぐ
をれうもありをれどうはくくそと流るもる
こゝうこゝうつあるべし家のだ餐どもく
そ〻世中のれいそぐもるのどやうるりぬる
ろ〻対面うちをて嶽のうは風もうぐるゆ夕暮る
おなのれうこる間のゆとぐ〻ふゆひて姫云つう
こゝえゆひてけ〻ちるひくをりゆつうやい
ろうげの地のどるもすれどいづれもひくへ

ゆりふびつてそのをうれうこやうれど
らう〻しこ地よ行れ今の世よまく〻しう
つへうへうへ人ゆう〻行ゆ〻ずるうりゆのうを
れの浦式ちどうぐへゆひてそのをうれ地は
きゆう〻の山里ゆるゆ玉ゆへをいとぶと
ゆれゆものどびは行れど来るりて
山びゆてうへうへいでうもひきをれ
けんゆ行ぐいと心ゆうをそのの結ゆを
りゆれう事ゆりゆおびのるのどいれ
ひろうあうをれるようゆうこうこ
れひとりぐをうけ〻をめぐう

しきこゝとなれちゞのなてゝ
へゞちうさすとくうねくちくなりよるやと
のゝへゞはもちろうのきぬふさいいりうち
そへてれあやちうめでうりけうへなりやはひ乃
世ゝまうへらめ女でゝまりけうをなりてゝ
そへてもやけしねくゝやんゝゞちるゝゆゞれる
うろうをゝてゝこゝもちうへゝをうへなりゝゞ
うけいれ紙筆しなふかいゝゞうろゞをうりてゝ世ゝ
もちねくゝもけうるゝけうれるゞへのゝこの法ゝてゝ女
れをけうゝいねくゝゞちるゝゝゝゝゝうへゝをとりてゝいはひ
世ゝゞうゝゝゝゝうゞひのゝひゝうゞゝうめへゝをとれ

ぬうすくちるちんせゝゝゝひのゝちるはゝゝゝひ侍
ぬうゞひ者をゞすいゝゞはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ女のれ元服ゝゞ今のゝゝゝるりぬうをゝゝ人
ゝれゞゝひのゝ世ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝの者ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
へゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゞきのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゞのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うちのーげよりひ冥けしめ入う娘(書井)武のれ海のいて
そびはるうらうらてうりのはとひきのう紙
はぐーのさりじんざるぐのあてよりのまあう
うれ(ゆり)うち海まりのへいぐ(書井)ちひてすらうそだあ
の入ううさめつりいうりうけうりびうてとりゆの
ていきいうぐうけうりうりものいちすうを(たえん)
限(ぎり)ちるうるーとはぐーうりうきあうきちぐひき
ちうきひのひてぐーやうきのけあぐ手琴(ことん)ひうきを
のひてアちのううべの中ーいまめうきうれをうう
じうのうぐれていいひうきのういーはうーろう
おま人の指(こぐき)はうくうきのうあうりおひぐうち海

十十六

はうーいーはうぐーううーうのは事のうーうーろう
うーうーうけはうぐへうり風(ぎり)のうーうぐーすーはうと
行ぐーはてぐーうんのはうれぐあはうて地表はう
はうれれあそぐうんやて秋風(ちきり)ふうと合て
ううぐ之結へう声いとはうれうれうれうれ海
ざ面(れ)はうぐをもいーうけうりとひううーは海
いうぐうへんうりやあーんうぐ表まりはうり
うはうまうて山手(書井)へぐーいれうそまりのへり
はう(ぎん)ーう銀面もうはうーうれはうぐーうて志海
学問のあうぐちはうんざえの程うりあまりはうも
あぐうきうけぐーはう(原)ぐーはうぐーうれうーうれうと

ちりをうくとそこそこしのやうあんとはさふ
ゆへちりぐうてもちりはすることちんこうじか
ちうはうと笑しゆて時ぐいことつぎしうまへ
笛の音はもちろくいつくもろ地をそれ笛をり給
ひとうつうはりげるちうまるまをそこいこぐう
はもちろくれびれこと琴ぐもをべしぐとぐめて
はくぐいぐ拍子はぐろうしうしぐうちうこ
ゆひて嵯が琴どうちうぐうひあか大鼓もやうの
れあそびよ心とぐめめていそぐきれまりをぐと
どもをぶのぐれ給ちりうりげよあぐさちうせる
心のりりぐれしてこうゆるまはしれちぐ

十七

のゆてれこうこけまりゆるうちうるれぐはゆと
ちぐこ高りれゆづけこぐ地ちぐこれもくこうこ
ゆす。びめぐいあちこうこうりゆひりあて
けどくくもてちゆひひ琴のひびりをもこうを
はこぐどいまはこうちうぐ備てこうゆうをいと
はこうこうありめべこせちうこてとちうこうう
まつう大鼓のれうこのわびべどもこうめこうり
はくぐ地給ゆうやうてまびて人は地ののゆこそ
立ゆうりけうをやとこうこいはちうりて出ゆうこう
うこうめこぐこをするおやしうちうりゆて
れこうとぐめゆへぐりけれうへをそいりうこうが

あとをまへど人のあやまをれげうあれこと
そいでくべあれおをきるとしてふいそぐさか
うりもどそつきこしろふあさまをきれれば
よそひうあくこそけるとけるとけどよ
うちうをそせいうそ和まをけうれと氣文を
つづくと心えをへど者まで出のめ此記をふ
声のいつそこそで貴い今こそいでさせうまひ
それいづれのうをよあうまいけん今えん
うあうけどこそでといひあうりさめさどの
人どいとうどうさ者のうちそめさ出つうハ
うどそれ元のおりしまつうこそさひつれあれ
むうけやきううどやはのうこうけんん
つづくうれ心をとく傳あうり貴いうちすぐ
ぬをまとくうちあくあうこそまあるど
めづくけるこあいよ世の人もひいつべき
こなどのしわそ世をとあづめをつと
つうこまとくうくうこそ人まうこうやとこそ
きひつれわくもあうこうあばと貴のれ中の
たうこと芸芸も今もいとくなりちづくやう
の方こそいどこ四ひ人も受て出て
心けれど移えどうこあうこと文もこやう乃
多文いけくんずくん物をせるくうこうきのふ

れむまでまでまで

ちぐさにさくらめをさまへちげさいとあさ
けさちをも人へとちをさをひてんとこのさいつち
ゆけりをさくさぐちるこのゆれぶとロあしう
ちん（誠）よあめれちくいちるぶ人ちさいうくまい
地ちくめれぐちくうぐまうぐ人の字
ちふ所もあちつけちやうちんはぐちりの行ちも
あくめちくひまぐるもゆちを（れ人）のれちん
ちもいとくうちちくちりうれちくく
ちりめぐげあちりいあめりうもて
ちちくくちあくれやりむつびわちけが
ちりちあ（保）ちぐもちくばを所ちあんち
ちてもちうちよちんとちをのひてさちて
ちくちりゆくげあうくとをまぐてくて
ゆくめがちちくん（クまち）人ぐのいちまちてゆちんぐ
ちちりけちを心うくちあ（大ち）ゆちを（ち）ゆ結も義ちも
ちりけちめくくちれがあちまうちてけ（羽）ちうち
の結もくちうれどくけても氏人ぐのちくの心
ちんちりゆくちりけちげちいくちりあちくとい
ちくちくちてちちげくべくゆれがちれちつちく
ゆけとのふいうめくちちんくちりし
ちりぐくちくひゆてくちくばくいちくぐ
ちをもずれちあ所ちんちくちくひと

とれどこのわれ地げるさ行と心のやこまどひ
ていそぐ地をんといさ[illegible]めるるんそてもられ
ふうろうとい[illegible]けんうるめ人のうるけうて
さいどけくあ[illegible]しの法もあらるさるくひるーさ
るるそ人のれるやけれんとの法人ぶ何のうさ
うるーるゆんうるるぶくもうけしさ
ちどーさつーつべうある地をいるちちあしく
やるうばこのくるやるてうちめめ心もれか
人いいるーいくあーふー秋のるううどの
人ぐいまて心ちもうどひて行るうるひけ地
ぐうるけんさうるひあげさあう姫恋いるる

心もるてあるすうるーのるさのれどいるく
らうげるれる面を表るるり結ばるさ人るひ
るぐ心あるるくもれしーのひけるをるでいる
く人るるくるるるさひけるれるそまうて
るれれるそれめれとるをさいるる法う。
れるるるん方るーやうのるい恨るるみるのれ
いるさ姫も。るれげるるあやまるるー。ひう地紙
るもあれど。る色をるるつるる人るるべるひる
るるるるあるれいあけれ立まるるるて。年
びかりまるつるを。るるるいるけるれ行と。る乃
れもるるるるるるるんと

うちとけて、ゆくすゑつゝをゆくしごとり
ちりぬけばやうるはれもてなるゆめのこと
つゝをこゝろとてもうちまぎれぐゝいとやさ
うらへもおなじすべうあるを夢はうぶれうさろ
ゆくすゑまでめれじ、さるひとざとけう
ゝゝとのがどうるべく以行そぐしうこと
もゝこゝろうれあうまぐこゝうれど心をやりて
あゝあゝぐよいひうれよ今うるつて
なりてんやのれうろのいとつゝきちりそて
ゝういうりとゝいくうれゝもおもうれざり
えゝこのあへがいくゝ中ゝうれゝのおと

おひてあれいゝゝやたゝ物云ふ様よ男法ゝんゝ紙
えへゝひゆれがめでゝうゝさまてもゝゝ人のすゝうゝ
あゝのめづゝゝうゝゝゝふあへうけんとゝゝゝゝひめ
ゝゝいゝくおうれげうれゝ後まてゝうゝげゝ中あへ
どもゝひあるべゝよもあゝゝぶうちるさあてゝいう
ゝてゝうゝづゝゝうりあふまぐゝけざすべうゝんと
ゝのびてゝうべゝどうちのあてゝ家とのゝ恨ゝてゝ
法家いゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ中ゝもあゝて武
ゝうゝゝはゝゝれゝあゝんゝうゝ心乃あり
けうもうゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝのやうゝゝの法人ゝとおどうゝも

まべさまこうりいさうせひつさ法ともてく
までうづんともなかばしくぶざりしをづかく
まてあるそそれさられだそそまゑのれくなを
なばしうけうあれどうたづてくくへのさくを
あくばばたうかうまうべきへやくうちあて
一歳ううくめてひとうきへあるをさくはされ
ようとうびあくくむくまくそへどづ心
ざのまうれどうやなくどうくうせひ写
法池心のうちををりくばまていて根写
法うんくくはづしんともでうとされうこ赤
あり一衆も人めをげうてせうとをそ写ど

ありうくばづ〇ようも表よなばし法ればタつ
くさめくくうあうべくし衆御ハせひをくばくう
あうそまうろうこび法をまあばうて地流など写
法つのでまはタとよりの間のあくばのをんばて地
し法ようくばいとあるんいとなくさゆくばうさ
くとくもひそあて法て人よ地なくもを法付
べきが心ばうくくくとうもくくくしばとをへば
まうくうもをり法をばでやとをへどあんとくくて
をへばたくうくうとのすばうればあとなるひ
ようめなてあくくそてあうばうくよう法うんをばり
あうあこまり作よう後をくくもへるようばか

はりあるければ、こゝのみぐさとなりぬとるんだ。
みるとて、いとゝもづしとせんくるそこを長は心
ぐるしてよりいまはるべきよういしのへく
ばりまてゝとるまいひをしかつぶくゝ文をども
つまもんことのうちきあるりとはまつよいとらげ
ゝ地はいりあるぐしめくゝさるよあるでわれひ
めるやうなれど心もそなそ人さげまう行る中
さうじとひけどれいいこるさうしめるまども
あをひとうて人のさとをずくゝこうばそく
ぎてゝさうじまりうりうりておめくるは文をも
めとさうて風のきのけるねとれてうちそよ

うくは君の明りうるこゝのうち。
おさるうさ心ちはもとうくはしうぐるうや雲ね
もうるこゝの屋これとけうう
のりもひぐしやくひとりぐら結うひうう
らうげうりひうぐう心もうれいれいあけ
きあへが結浪やうふとのあへどもとずれ
井とぐるり牡がとをうる結けうもづうて。
あいあくれくがひさいれあへど長いうあうもう
あうめぐるくこゝやめれとうるぐらくあうて。
行ぐうるうもうくれいうこゝをとうもず
さ夜ちるくあよひうりうりぐよううて吹
こゝ嶽の上風那まもうこけうれとうひいぐうて。

家の代前よりつたへおぼえさだめ
てやうやうを語りんとてまづ
あいつゝ始まづ一うてはげの方よりぬけ出て文
をさめれどお語りよもえあひ語りぬ。れる
ぎ風まもえいりぬ。ひつぶれて笑て語れ。
れ語りしとのをまづ
らんべやいぶせんとまづ
ぬりうらうげして打
まりともひまれ語いざりりまるさも
ぶべさこともはまづ
ぬもいうしうわびめをまんいぞともまり

語りぬがとまるびまう人やうをさひまをもつり
出しんぬがとこぶも今すそ始まるさりの時ど
まて。ぶいとしらぬ一うのをふぬがとぶえそのの
まりよまり語りぬ。家をいとつりとさひ男語
巻方はりをんと乳色まるを語りぬ。
ぶたりいとむつりされりをして中家の
まをひことりて寄りゆへる。それの世中をひ
ありて始し語をこりぶりうひいをさる。
まりでをまりてこりやすりやすまをん。
をすぶりへけとりつをゆりて。りひり
ぬりまめれでありへぶもりゆるびをび。

ふるうのこゑぶめるこのあて。係ゐまうでこを
はり給れいと爲もゆうこれでこをおむつりあつて。
冷ノ
うへいこぶくゐあばしめしこをしおてれむ
入しあつれぐこうりあばこれんを飛ぶもこ
こて。まろをあそびあるどゆへ交ゐあづけをり
こうこうころやをこれど。いとこぐりあすけこう
人立まだりてどのづこけづこもあひるこれ
まりゐこればちんと笑あて。はこゐつこ笑
給家いとあへゐこと笑てびこりあをれは。
菱ノ
ゐくゐりあてのちいこうぐしこうばそ
こりしこうれこきの系こそいけの限のこ

づこれとものて。月童こつけて。老のむつこも
ゐぐこゐんとこひつれ。このれゐへぐてありて
ばしゐるもけくこゐんとここしゐへじけこ
まりて心ゐあばゐもふこまへここけこと
ちんこつあへここくとばいこう
ゐくへぐてこつあここはいぐこりこえこをこゐちん。
ここんくす
きつこが世中ここあげこて。ばまうぐこんゐり
いこつれぐこゐあひてこつ。こべれぐこ。ころ
ぐこここ給家をまろをあそびつざこまして。
ゐぐこあここひあへこゐん。あここゐこゐまれ
しゐこて。ばぐここへこゐこへゐこをこまへゐこ

国立公文書館
National Archives of Japan

やどりぐさとぞ思ひ侍る

うちつる事はてゝ夕ぐれのころむしろ人よりはなんとて
むかへいでゝ物さびたる所にとゞまりてゆうぜんとひるまて
さてもやあらましかばと思ひ給へられ
ぬ人の世の行ゆくすゑまでもあるまじきものなれば
るべきことをもこゝろぐるしくゆうすゝめてゆうすゝめ
やうにもてなしてこゝろのまゝにぐしうこそ
一所にていかさまにも心のまゝにぐしうこそ
あらめ家もいとかりそめにせいしの給へとあらば
とかくぞ思ひ給へられのれつれぐるしけれ

よもすがらかいつくろひたてゝ侍りけるを書
ぬ家のれうにとて侍りけるこそ恨もとゝ給へる思ひ
きりとも心ぐるしの侍
ぬ人とぞ思へれいとあはれにてこそ
てはつりのまつり十四よりはんかりけるをりは
こゝろのうちにあはれにてこそ
歌をのつりうくこゝろ行なしに明暮のまてあ
そびやまとひまてつゝ
れおりすくるこゝろのうちにあるべき
まゝにこゝろ命をこそひつれ今こゝろ行て
ちひろのあはれにてこゝろ
ちひろのあはれにてこゝろ

なれとそなたをなほ姫君いとづゝしくとそなたをば
なかをもまうけ給ひて　ぐしたまふこのこと給ひとて
太政のおほきゝ宰相のあいでとそなたをば宰相君
とそなたをきつれたらはしくつくりを給ふと
夜はよるさぶらはしまいりたまふも
さわうはなびしちびを給ふ　ぐしめさ給ふも
れば　書ぬん　いとくしづゝしさはして地もの給ふぐ
そむつゝしとちとそれそれ人のれすを　宰相君
すくをのくさぶめぐるくとの給いでや地ぐるくと
あれづりとそとそをを給ふ給ひりしとともげる
つぐえや人はとりさとそとをめぐとそ

十三

ゆーあとをよくちまばやもちまよいふとさのの
太政　地のこころよりわてを給ふ人のぐめんも
ちとちさはそくうとれいと心ばそとて
湖をのびひつあとしすうとをめれといと
心づとそとそ家とくとりて夕月
誉の人のまひよ対面をとせのとりとそもれ
とづくむつづれて地もいでちを給ふぐ
心のいとつとればされはひやとなんとれ
まんぐ　をとりはをんとそりちとうべけれ
ちどすとひまありめぐりいと日ばとそは
へぐとつとんとの給ふ面もいとづと表げられぐ

まつもさそいあるのとの給ふといそぎちん
やとのゆへはずうちづきまつ風もおさまるげ
ちりれとれはづゝちり表まで〻ちまふけるひとち
ちくさひのまろれさきの声よ人ぐさやちば
ゆらこはげゞいとゆくそろとそて〻ちく〻給
さゝもさゝれはとひろゆゝ〻給ぞ
れめれとちりてまくめなるゝ色をさゝあれ心
づきうやげようやまを給ふめこをいあぐり
ちりとちるいとつくいでやうりけつ世れ
表のはゞーの給ふといさゝも〻ず大納言殿よし
いるふうを給うんめてくれ袖の給の六位をく
まつはやくもはのゝ色ぶひ鳥風のうちる
えぶゝそちげくちりうちかゝて紙をば位ちゝ
ちゝくるもちりうちゝ月すする世中うう
めりれば表もちうまちうちちゝそめぶ海
しりうちゝまへ
紅の袴ゝ袖の色をあさぎりちやい
ひとのうべさゝぶしとのゆへぶ
いろくゝゆのうゝ海ぶのちゝはいうゝ
深げう中の表ぶよのの給ふそめ表へゆうちり
ちくていりのめうちゝぶいゝうちりも
いとへいろくひのあぶりて〻げれまゆめ

車の中にてうたよみあそびやうまいそぎ出のあけくれひとりもまぎれぬ心ちのみしられぬ（たえ）やのかへりあれば（たえ）ぬるやうにてうたよみもあるべきものこゝろまゝにいとまもなくて霜のいとゞ
ものさびしきそぎ出のうちにてもまゝにあるべき
ゝゝんがくづくしにて（たえ）ゝゝすべかれば心やすきことにていそぎ結ぶりうたの
ほど人やとゝまるべき心ばせなきひとつにてのの
色もいろくまりてまぐらうるる
宮水うゝしひすべる明られのそゝさゝ
みゝ河れ（源氏）大夫（たち）ゝ長（たち）ゝ河

ぞうのれいそぎちるべどけしきべのさうぞく
ちぐらうゝ如めゝていそぎきゝのふひんぐの
院よい（源）まりの衆の人ぐきゝぞきゝのふ（源）ぞまた
ちまのゝぐも中（紫式部）宮ゝもわゝしをげ人の
れうまでえるべまれのゝうゝを大（たち）ぞ
ゝゝりしぐゝうぐしけりまゝもうゝん
人のゝゝもつるゝうもれやるゝべる
ゆゝるれば（源氏）ぐいどゝていくゝうげを
けゝ結ゝゝしあり（源氏）撫（源氏）ゝ大（たち）ぞ（源氏）ゝ（源氏）ゝ（源氏）ゝ

はをぶりくるる寺なれば娘をものくるる給ふ乃
舞姫の姫先ずトのつれうそて左系ぶ更ケるる娘ら
ちるどいくはりけるるるるとめるつへいと
はさひれど大納言の御ぶのひすめをなるるる
よ数代のいるさ始いぶりそうんるるのるぶる
るべるとさいるあいるひてあるで左系づへやそ
きそすべくさひるそそるる舞るるりるどいるく
るそいるるるそるるるるぶりるるるるるるる
るべるいるるるるのくて毎日のるつけて
るるるるるりるのるるるるるるるるるるの
るるれるるるるるるるるるるるるるるる

るるるいはどくるるるるるるるるるるる
内前るるりてるるんるるるるるれ前をるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるのるるるるるるるるるるるるる
れるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるいるるるるるるるるるるるるる
れのるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けてざれありさのよ（源氏）ふそうとうてめなりて。
そうてうそ海ちべてるずぬる光げうくそれ
はぶくちりぬ芸のまいるどくくはいどれとも
ちくうろうぐるはにちくくしのくくと藤姫のくう。
（源）ちを後のと（雲の上くもくく又）大納言後とはどれうとのそのくる。
げるいくちりくげるれどくくうのうくげるる
くいれ（源）ちを後くくふまぐうりぬくくげよ。
い海ちくくその和くくもまぐうまくくう指新（やうばい）
ちぐのくどくうりくげるくどうはめくくな
ちり御の年姫どくくりいくれまくおくちび
くげるいくくちりちり

（保）
（円義）
袁寄りのてゆらんず。ゆ
（大武ノ紙ニ五節ト）
ととめよ。そぐを
つくる。れ。ふこのうらぐ
（保）
ぶ
ととめみも神さび
ともゝ数へめれば。（ふ）
ぶ。しけるまゝの袁れを。
うゆゆゆもゝゝ
（文部）
けてゝへばゝふのゝゝ
げの袁の袖ゝけし
あへて。ゝゝゝ
ぐゝゝゝゝ

（保）
（ゆ）
（ゆ）
（ゆ

（牧之原と）
内海のとりあつかひまく
つまもとゝ（ほ）ゝ貴もあぶひ（ほ）心をゝ（ほ）人（タ）へいとゝ
つゝ口ゆゝとゝ（ほ）ゝ（ほ）ゝ（ほ）

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

こゝろしのべんじおぼしてそゝもあんおひらげをれ
ゝん人のやうよものゝふれゝのゝるゝへどおひ
れどゝげをれゝう心ちぞするやゝひゝりごゝてお
泪ぐゝておのゝりがれゝこゝをおもふゝんとゝ
心ぐゝうゝて家もゝちひゝゝをのめおゝこいゝちゝ
おりきゝゝゝの人ぐゝる心をゝゝゝゝゝゝうゝれ
あゝうゝゝあやゝるゝくゝかれしのひゝをゝのゝり
ゝるゝがゝゝゝゝのゝゝれのゝべゝさゝゝゝゝゝのゝゝ
ゝゝ六位ゝゝど人のあれゝゝゝゝゝゝゝのゝゝ
ゝゝゝゝふゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あれゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おとゝの今はゝゝ世へ浪ちきりげ
に係ども有ものゝことゝもれどゝとゝ
もあとのあはれ世のこゝろゝんも
なべての人はあらずと世の人もめでいみられど
学ゝゝゝとのこまゝりゆゝゝ命ながきもう
うゝゝゝあひさゝきゝゝゝゝゝゝゝゝ
ても世代ゝゝありゝゝゝゝゝれゝゝゝんゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝも大殿いれありゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

門前
ゝりのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
東薗院ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

るうちとあり院もいとさうるねびまさを
かまそれさ海よういあ海めそろうるすまを
ゆうりそいつさとれ文人へものぐぐうぐそれぐえん
くうとうとうしうう学道十人とめす式ゲの川くさ
の心この恋をあずしへれ題まの大夜のたうた恋
の心をめべきゆへあるりがくぐうさ拙れい拙を
ぐうぐいあずめ舟まのりて池ゴをられ出そいと
すべあげやゆ日やりくくうてぐ京の舟どもこうぐさま
ひて調みがそうする行の山風のひぐさ坊もうく
ゆさあをうるゴ恋れ恋いうりうーさうち
あるでもまでらひあそびめべを拙ると世中うう

めううぐし法うり法号鶏まうの日どう学の学恋
えんの拙学ーせて院のうどゲ又ばりのと
をんやとの法ゆするようけてそのほの世のと義ま
ぐーつけうまひうる行まるぐ法院うれ
ををうけあり
係
寓のえんげうる春いむうをそむれれう
学のうげそをうれる院のうへ
未
九室を舞つぐうるをうるも去とけげうる
ううひ京の声、呼のうれやとうをうう今八芸郷で
をて今のうれ冷うをうりをうりの
蛍
いうへとうをうへうる学行ま方げう

春の春さへうつりあひあぐやうさうしあり法
へる。うういとよめでうたをしてを
鶯の春をしてさえびらいまづうみそれの
色やあをうとの絵うたをするれありさ海こよりあく
ゆへくもくおうーまみ。えれもれつうーざ海。
うちくのくとうれがあるまるまるあるれずや吹よ
えんえうさやはーてけうるやあんぐ系ととて。
ばつうるれべはうまへくはくざるめ寺。巻うつ系
びも間のはとで和琴。さうのあうく院びれ系よ
まそ。えん。間のはのさ。はとぐ海そうのみ。う
つうじさどるのすづれうられるづひども乃河
ーのへるるいうとへんうるあ。さうグれ改ぐ人
あるうさまふあれうとあそびてづざる掃人。
月はろうよーしてはうーはるるうこ
ぐるびびとうてはあそびくやうあ。和
更めれどうつみでよ。大ささいの交おります
うさせうぐてうふひうさうをうまはざうんも。
まうけるれれば人へうまつうをのみ。はとぐをろ
ともよまふひ絵。和絵ろうこびめてれ毎いやん
ありいとつううぐすざるのひよけうれそうひまも。
絵。はつぶ 加家とせひむうさうのてぐくるぐおります
ぬぐひまわうーけうあをと。はりうれを

はるそいまは（孤行）ちくさりぬるうえひよりづのうとこれ
ゆきしりるをいとうとうでしけるくりつりかうしまいる
ゆうとんさうるまうのれ世のうとはるひ生れ
ゆうとうちるうを結さうべきれうげどもをれ（冷月）
ゆて後雲のけぢめもせふのへりれわをうふちん（深）
ゆぐうあゆりぬるまうくまと学しのふおうぐも
ううべうをやうるうるうてうとうるうひて
ちぐ学れのおのざやうを（冷ノ地）ちるうぐうへうをのふひうさ
るも結の秋はあさは（敗）ぐてけるそうせんせを
うもちのべうされすくはうはうれぬもれようてと
ふうしへをうひはぐと酒結のうん（彫）のうをるのど

やうるはぐし出るる衰ちるうとはるう今とうれ
べうはりる風のうてうとはのあさ結うとうえうう
べし結ハ切はやけるうをれうきうを結うとはるはぐぞ
れううぐりのううきうりうりるうれのうとう
れれれ心よるうをうめはぐ金ちるぐうてうる
世の果うをううとうさやうるへ後はをうぐうる河成
はるしむうりける花ものおうをすうまくるさぐれ
うもしまうりて朱ちんもムうべぐうをうえぐうくぐ
うひうをうのひけうくうてお学の恋をこの日のうと
うけうりけうりのて進（えんど）土よりのひめうをうつを
はうをうしうを絶ぐとうをを結しうぐうをうぐの人

まづ三人ありけり。秋のけさ、ものうち
うちして、坊法師、あがれ人のかたくいすゝ世
をのがれ、おこたりのもとにまゐりて、給もつ
れば、まうちうちして、ものもいはれ
きゝそこなうまじきあべきこと、うち笑てゐた
る心ぐるしきれ中なり。法師、ものゝ後ひ
みをなりて、ひろくこゝ家あり、そこうちそ
ばつゝきに山里べなどもけどもいとまなき乃れ
心ゝて、六条京極にうちうち中宮のうちの後と
つ長四まちとうてけりうちも給ふ文あるに年そ
ゝ十なりあひけるとき、貴のうちに出家
ばしまうちうちもけるうちぐうちこと
がうちうちそうてこうのれのうちぐもかるべ
ばうちうちうちこれ家ねうてこうちぐうち
ゝうちうちこのれのうちぐれうちうちの
うちぐく人舞人のうちぐうちうちとれ四へていと
うちのふ法仏法事の日のうちぐくうちぐうち仏
ちんうへいうちぐを法けりひうぐうの僧まも
けうちうちのうちぐもありれうちうちまうちうちと
やびうちうちうちうちうちうちうちうちうちうち世中
ひうちゆうれうれうちぐうちうちうちうちうちうち
うちうちうちうちうちうち世中まいあるうちうち心うれど

山つらをがあやまちくまもけてこれて
ちーちるあ文べとされういちぐうれちきと
のゝ[浮]はうるひ[浮]ちとやひ玉ちまちと
をあうけあとつとなーちをうをあ
けうやうく[浮]あうるうるへぐあけれ
中よ[浮]ちうけるうれさひまうれてせるうる
まーのでうちくるやひーげうれまへる
すくをとて武家まぐまはひるどかうう
ぶすよまるくこのせるあまうまぐひぐーいと
あるう法へえーあうちのひの糸のうちをあうべき
うれとうるよひの武[浮]方心ゆうぶ地ーとのをれ

ばーうれれのれまらひの程ちぐまもおとぐの
れうういちるやうなるとやうくうーあーとなまひ
ちうるへるちるべーハ月ニハ六条院けううてて
つううあふひけどさうのまちい中[浮]愛のれあうこや
なれがやうておうーますべー辰[浮]巳ニハ殿[浮]のおうす
べきまちやうーうーひんぐの院ニ住うまあ
基のれ[浮]方いあいのまちはあーのれ方とぶーし
をうてうをあうまりあけう池山をもひんるさ
有ちるどがくげーくへて水のをもひさ山のとさ
てとあうるて揺ぐされうぐのれすひのの心ぐ
へをけうをあうり南[浮]ひんぐーい山あうくうるの

茂のまゝとゝいらてうへ池の底おもしろくそ
ゝれておもへらくさ前栽(せんざい)よめ築(ちく)地(ぢ)梅(うめ)桜(さくら)藤(ふじ)山吹つ
つゝじなどやうの花のまてあそひをつくしたうへ
で秋の前栽をかゝしくはのるまゝ

秋好中宮のれいぜいまでは、まことのやまと紅葉の色こ
ゝろ〳〵にうつくしうすぐれたるを、たうへいづれたる水ぞこ
ゝろ〳〵やうの水の色まさりてうつくしき岩もそへてこゝ
ろ〳〵におもしろくて、秋の野をこゝろ〳〵にうつしたる
こゝろあひにて、盛にえだをさしたる花の木の
ちらのやまぶきはけぶかくにほひあり。

花ちるの方へ

おのひんがしすぐしけうの影ありて。夜さ
ゆるやかれとれ夫ら高城これ作ちこれ風
すしうべくおぐうさ森のやうなるみなども
まづくおまうく山里のうちて。卯花がうこと
きましいうてひゆゆ学さうち学ぶそ
しこうきびうるうるどやうのこれのうさぐ
とうへて春雨のなそその中ようちまどう

東ゆきて さがて 駒場のかたぐりらちゆし
てゝ月のれわそび所て水のうりる 菖蒲
へゝけりきてむるひよまわしてせるちき
よめどもをゝのへそせうへ

ふしのまちくおかまてつきかてこうまちち
ありへぐそのうきよ松のましげく雪をまて
わそぐんこうりうをうと冬のうぐめ新
勅のむすびべき勅のまぐさ見れいぐかうこうそ
どこ〳〵ぬさうるもちこあを山ずだのすぼさちぐを
うけしこへうりひぐんのうろはひつり絵一枚
まとこうぐめを絵しこぐ絵ぐこやうちり
とそ中家ハすこうのべを絵例のひくくる乳色
どうれ並散里そそ東をひてうけろひ絵巻方の れ去
つこひいばばよあうひどつと心こくちり小車十又
れぐ第四位女位ちうそ六位位巻ぐくちどいこうくさ

限をうこをのへりこちうこうあぐぜのそし
ぐまやとちづきのへれいあるぐよぬどくよぬくこう
つうこうきくいる今つすのれ乳色もぬきくぬく
し絵ぐそ絵巻のれうそひてそうこいまそうづき
のへいばるうこもあうべうきと色ちとこうえうと
女房の簡日ちれあてくくのこうげで大方のと
ちうもめぐこうけうめ六日ちて中家まぐこを
絵ぶれぐこきうこ良いへどいと東をこれきいきの
ちぐれのへりけうをいぐうぬすれ頭絵のちう絵
まうくとちりうぬりこまをいぜるぬくぬちれ
のへるうとすぐれてうんなりまりけうこのうち

まちの中のへぶてまたへいどもらうあどとどくく
ゆきさよりてげぢくくあるひはきあり
ゆくり九月はあれば紅葉もしくくちばそ（枝）ゆのおもん
えもいはず面白し風お吹くうゑ書はもこと
ちさはらくの紅葉とゑぶそ（吹）ちるさはもせ
ゆくり風をやくるうにつものそさあるあじいをん
のおり拾ふ○てあくちびのうまもくくちぶと
いくうちれてらうつる歌のそうとと（いろ）滅て（まう）来
うりきぶきあれどつのおりくとるん
えばし拾ぶり（そ）けるぶ（ぶる）而ふくうとひあれうい
ゆくりまはすぶこれまうおう

出ぶうくくうる

心くく（枝好）葉まりそのくつのしづやれ紅葉を風乃
つくよぶくくる（笠）つくさへぶれけうひまくわす
歌どもおりれうつれうちれくくのるこうけし
くふくちのの心ぶくうくしくゑ紫（えい）のくぶる
風（笠）る散（ち）紅葉いくうくし葉の色と岩れのれく
ゑけくくくる山（比）岩○の松もこ歌くくれべくるれ
つくうくぶくもおりくくうりゆへぶくうりの人子
ゆくくくさちぶと（枝好）おりくくれんぶれ（おえ）家（ゑ）人ぶも
ぶぶあくり（保刃）おりくぶ紅葉のれをくそこいとれくぶ
ちあり葉の系ぶくくびれいくくゑ笑（笠）ゆへびび

如案とゝのひさうんいあるゝ姫のさうんこともさ
ゝとうきぞこそ・安の張（げ）ゝ立うゝれてゝそゝうゝさ
ゝといひ出うあゝと笑しのもゝ（代）ゝゝやうゝはけゝさをぬ
ゝ有情の・ゝ家物語うゝゝいゝゝぐゝさゝゝやゝゝ吹れすまね
ゝそ笑ゝゝより（涼）語・大ねの出（名）方いゝゝゝゝぐ乃
ゝゝうゝひゝぐゝゝゝゝて・ゝぐゝゝれ人へいけゝゝゝく
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝて・神無月ゝゝん涼語けゝゝれ
ゝゝゝゝゝの有情ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ語姫
ゝゝの出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝけゝゝ光
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan